

日本語と中国語の指示詞に関する一考察  
—同一場面において「ア系」が“这”、“那”と対応する場合を中心に—  
**An Analysis of Demonstratives in Japanese and Chinese :  
A Comparison of Japanese “A” and Chinese “Zhe” and “Na”  
in the same scene**

日下部 直美  
Naomi KUSAKABE

**Abstract**

Japanese has three demonstratives: the Ko-series, the So-series and the A-series. Chinese has two: Zhe and Na. This paper considers some cases of how these systems relate to each other in conversations. The A-series are used to denote information held in common between a speaker and a listener, whereas in Chinese commonly-held information is denoted with Zhe and Na. The A-series are used even in the absence of a clear referent; for example, the referent may only exist in memory. This use is termed “memory demonstratives.” In Chinese, Na is used to indicate information that exists outside the territory of the speaker and the listener. Zhe is used if that information is introduced into the conversation and becomes the topic of conversation.

キーワード：指示詞、場面、共通理解、領域

**I. はじめに**

日本語における指示詞は「コ系」、「ソ系」、「ア系」の三つがあり、中国語においては“这”、“那”の二つがある。両言語においては、「コ系」と一部の「ソ系」が“这”、“ソ系”と「ア系」が“那”と対応するとされているが、「ア系」が“这”と対応する場合も指摘されている<sup>1</sup>。

日下部（2020）では、「ア系」が“这”に対応する場合について、話し手と聞き手の間での「共通理解」という視点をを用い、日本語における「記憶指示」の「ア系」は中国語においては発話現場に存在していない対象に対する“这”と対応している点について述べた<sup>2</sup>。また、話し手は自身の領域外にある対象を任意的に領域内（思考内）に移動することができる点について言及した。これにより、中国語においては発話現場に存在していない対象に対して“这”を用いることができることを明らかにした。

本稿では、同じく対象が発話現場に存在していない場合を取り上げ、日本語の「ア系」と対応する中国語の“这”、“那”について考察を行う。同一場面において、同一人物が「ア系」と対応する中国語の“这”、“那”を用いる場合と、複数の人物が用いる場合についてそれぞれ分析し、発話場面における話題とその会話の展開、話し手の聞き手に対する認識

<sup>1</sup> 讃井（1988）、木村（2012）を参照のこと。

<sup>2</sup> 日本語の「ア系」については、吉本（1992）によると、現場指示の用法では「会話空間の外の事物を指示」する。文脈指示では「話し手・聞き手双方の出来事記憶中に存在する事物を指示」する。これに加えて、聞き手が対象について明らかに知らない場合においては聞き手に対する非難、また話し手の感情移入などの語調を伴うとのことである。

といった点に着目する。指示詞の用いられる例文は、場面やシチュエーション、話し手と対象との距離、関係、話し手の視点、動作など、様々な要素が関連しているため、ストーリー性があり、映像として視覚で認識できるものとして、全て中国大陸のテレビドラマから引用した。日本語訳は筆者による。

## Ⅱ. 同一人物が同一指示対象に対して「ア系」に対応する“这”、“那”を用いている場合

同一人物の発話において、「ア系」に対応する“这”、“那”が用いられている場合について、以下に具体例を挙げる。

例文(1)は、雑誌社の女性カメラマンである「趙黙笙」と「張編集長」との会話である。趙黙笙は大学生時代の親友であるモデルに訴えられ、弁護士事務所呼び出されたが、モデルの代理人弁護士とは結局会えなかった。後日、張編集長が趙黙笙にその後の進捗状況について尋ねている場面である。張編集長は、この代理人弁護士のことを以前から知っており、二人の間で「共通理解」としての対象であるが、代理人弁護士は発話現場に存在しない。

(1) 张主编：默笙，(1-C-i) 那个律师后来找过你没有？

「默笙、(1-J-i) あの 弁護士はその後、あなたを尋ねて来たの？」

赵默笙：没有。

「いいえ」

张主编：没有？那他到底是要告我们杂志社呢？还是不告呢？(1-C-ii) 这 律师怎么说的？

「来ていないの？それじゃあ、彼はそもそもうちの雑誌社を訴えたいの？それとも訴えるつもりはないの？(1-J-ii) あの 弁護士は何て言ったの？」

赵默笙：他没见过我。

「彼は私とは会っていません」

张主编：什么？没见你，那…你见的谁呀？

「何ですって？会っていないって、それじゃあ…誰と会ったの？」

赵默笙：他是派助理过来的。

「補佐の方を使いに来させましたんです」

张主编：哎哟！(1-C-iii) 这 律师真行啊！跟萧筱一个样子，都要大牌呢。行，那就他爱怎么样，就怎么着啊，太阳照样升起。默笙啊，咱们主要的任务，现在是把这期的宣传做好，大卫摩根的那些照片选取一些在电子杂志上，其他的事你先不考虑。

「まあ！(1-J-iii) あの 弁護士ったら本当に凄いわね！蕭筱と同じように大物ぶっちゃって。いいわ、それじゃあ、彼の好きなようにさせておきましょう。太陽はいつも通り昇るんだから。默笙、私たちのメインの仕事は、これから今期の宣伝をしっかりとって、デイビッド・モーガンのあの写真を電子雑誌版で選ぶのよ。他のことはとりあえず考えないでね」

赵默笙：嗯。

「はい」

张主编：你先忙去吧。

「仕事に戻ってね」

《何以笙箫默》

日本語においては、(1-J-i)～(1-J-iii)は「ア系」を用いている。指示対象は現場にいないが、話し手と聞き手の「共通理解」になっているため、記憶指示による「ア系」としての使用であることが窺える。一方で、中国語においては、(1-C-i)は“那”を用いており、(1-C-ii)、(1-C-iii)はそれぞれ“这”が用いられている。(1-C-i)については、この場面における張編集長の最初の発話である。この場合、“那”を用いて代理人弁護士を指示しており、今後の発話における「話題」として発話現場に「導入」していることが分かる。すなわち、発話開始時には話し手と聞き手が存在する発話現場には話題として導入されておらず、両者が認識する領域外に存在している指示対象を示していることから、“那”を用いていると分析できる。その後は、“这”を用いていることから、発話場面における話し手と聞き手の領域内に存在している対象として認識していると考えられる。

同様の例として例文(2)を挙げる。「魏渭」と「アンディ(安迪)」の二人が車に乗り込みながら、一緒に食事をしたばかりの「趙先生(趙医生)」と「曲笙綃」の二人について話している場面である。指示対象である趙先生はこの場に存在していないが、両者の間で「共通理解」となっている。そのため、日本語においては、(2-J-i)の(2-J-ii)の両者において記憶指示の「ア系」が用いられていると考えられる。

(2) (車に乗り込みながら)

魏渭：这就是你说的<sub>(2-C-i)</sub>那个赵医生啊？

「あれが君の言っていた<sub>(2-J-i)</sub>あの趙先生？」

安迪：是啊，没想到他跟小曲发展这么快，不过小曲也是有本事。他们真是从完全不认识开始追的，小曲还有一半时间在出差。

「そうよ。彼が曲さんとあんなに早く進展するとは思ってもいなかったんだけど、曲さんも大したものだわ。彼らが全く知り合いじゃない時から追いかけていたんだもの。曲さんはその半分くらいは出張にも行っていたのよ」

(車でマンションに向かいながら)

安迪：其实我之前在医院见过赵医生，他不是这个样子的，一副精英的模样，没想到平时这么活泼。

「実は私も前に病院で趙先生に会ったことがあるんだけど、あんな感じじゃなくて、エリートみたいだったの。普段はあんなに活発だなんて思わなかった」

魏渭：小曲有眼光，我也挺喜欢赵医生的，<sub>(2-C-ii)</sub>这个人想得很开，也许是医生看多了生死吧。而且还那么聪明，看那么多书，他跟小曲一样都洒脱。只是小曲‘无知者无畏’，他相反。

「曲さんは目が高いね。僕も趙先生が気に入ったよ。<sub>(2-J-ii)</sub>あの人は達観しているんだ。医者には生き死にを沢山見ているかもしれないだろう？それにあんなに頭もよくて、沢山本を読んでいて、曲さんのようにあか抜けている。ただ、曲さんは“知らざる者は畏れず”だから、彼とは反対だね」

《欢乐颂》

この場面における最初の発話である(2-C-i)の“那”も、例文(1)と同様に“那”を用いて指示することにより、話し手と聞き手の両者の領域外に存在する趙先生を発話現場の領域に話題として導入していると推察できる。(2-C-ii)については、先に“那”で指示対象である趙先生を発話場面に導入したあと、両者の発話場面における領域内に存在している対象として認識しているため、“这”を用いて指示していると考えられる。

また、魏渭は趙先生と初対面であったが、アンディから彼についての話を以前から聞いていた。しかし、それはアンディが趙先生の勤務先である病院で会ったときの彼の印象であり、今日会ったときの趙先生の為人がそれとは大きく異なっていた。これについてはアンディも同様に感じている。よって、今日の食事の後において、二人の趙先生に対する印象において「差異」が生じたことが窺える。このことから、今日会う前に二人が認識していた趙先生は、この発話場面における領域外に存在しているものとして捉えられていると考えられる。したがって、領域外の指示対象として存在している趙先生を“那”で指示し、領域内にある二人が今日会った趙先生を“这”で指示することにより、両者を「対比」していると分析することもできる。

次の例文(3)も発話場面における領域内と領域外に存在している異なる指示対象を「対比」させていると考えられる。

(3) (アンディが曲筱綯からのボイスメッセージに返事をしている)

譚宗明: 又是那个无法无天的小朋友?

「またあの大胆不敵な友だちかい？」

安迪: 嗯。

「ええ」

譚宗明: 你是不是还担心, 如果这个官司真的打起来, 狐狸精的名声传出去对你不好。

「きみはまだ心配しているんだろう? この裁判が本当に始まって、悪女という評判が広まるのは君にとってよくないよ」

安迪: 我不担心 (3-C-a) 这个, 我更担心 (3-C-i) 那个魏太太, 一个人财两空又离婚的女人可能什么极端的事情都做得出来。你看她今天的架势, 好像什么都敢做。看来我是要遭池鱼之灾了。 (3-C-b) 这个魏国强自从他找到我, 我就麻烦不断。

「(3-J-a) そのことじゃなくて、(3-J-i) あの魏夫人の方がもっと心配なのよ。夫も財産も両方とも失って離婚する女性はどんな酷いことでもできるでしょうね。彼女の今日の様子だと、何でもやりかねないでしょう。どうやら私はほとんど災難に巻き込まれることになりそうね。(3-J-b) あの魏国强が私を捜し出してから、面倒なことが絶えないわ」

譚宗明: 我还在想一个问题, (3-C-e) 这个魏国强到底打的什么算盘? 他那样一个人, 把全部的财产都转移给你, 他难道不心疼吗?

「もう一つ考えていることがあるんだけど、(3-J-e) あの魏国强は一体どういうつもりなんだろう? 彼のような人が財産を全て君に移すなんて、惜しいと思わないといけないだろう?」

安迪: 本来就不是他的, 他只是遵照遗嘱吧。

「元々あの人のものじゃないもの。ただ遺言に従っているだけよ」

譚宗明: 可是你跟他只有血缘, 没有亲情, 而且我听说有的人为了取悦他专门高价购买了何老的画作。应该讲, 何老的财产有一半是他的, 而且他现在也算是年富力强, 他真的会心甘情愿把大额的财产都归到你的名下, 只是为了对你做出补偿。

反正我不太相信。还有, 像他那样一个人, 大张旗鼓地去打离婚官司也不正常。「でも君と彼は血のつながりがあるだけで、親子の情は無いだらう。それにわざわざ彼のご機嫌をとって何先生の絵を高値で購入しようとしている人もあるとか。何先生の財産の半分は彼のものだし、彼は今も働き盛りだよ。本当に本心から巨額の財産を君の名義にしようとしているのは、君に償いをするため

ただだと言えるだろうね。いずれにしても、僕はあまり信じていないよ。それに彼のような人が堂々と離婚裁判をするのも普通じゃない」

安迪: 难道真的像 (3-C-ii) 那个魏太太说的, 魏国强原本是想独吞这些遗产, 我只是被他利用了。他百密一疏, 但是没有想到 (3-C-iii) 这个魏太太能够找到我。

「まさか本当に (3-J-ii) あの魏夫人の言うように、魏国强はそもそもこの遺産を独り占めするつもりで、ただ私は彼に利用されているってことかしら。彼は予想もしていなかったけど、(3-J-iii) あの魏夫人が私のことを見つけるなんて考えもしていなかったのね」

譚宗明: 也是一种可能。总之, 疑窦丛生, 你小心为上。

「その可能性もあるね。とにかく、疑わしい点が多いから気を付けるのが一番だよ」

安迪: 要真是这样的话, 我一口吞掉这些遗产, 一毛钱都不留给他。

「もしそういうことなら、私はこの遺産を丸々手に入れて、1 円たりとも彼に残してやらないわ」

《欢乐颂 2》

例文 (3) は「アンディ (安迪)」と彼女の友人であり上司でもある「譚宗明」との会話である。(3-C-i) ~ (3-C-iii) の指示対象である「魏夫人 (魏太太)」は発話場面に存在していないが、両者において「共通理解」のものである。よって、この場合も (3-J-i) ~ (3-J-iii) の日本語においては記憶指示の「ア系」を用いていると考えられる。

(3-C-i) の“那”で指示している魏夫人は、アンディが心配している対象である。一方、その直前の (3-C-a) 点線の“这”は、譚宗明の直前の発話である「裁判が始まって悪女という評判が広まること」を指している。譚宗明の直前の発話により、心配される内容が両者の発話場面に取り上げられ、発話の領域内に存在していることから、アンディは“这”で指示していると考えられる。しかし、アンディ自身が心配していることは、譚宗明が心配していることとは異なり、発話場面の領域外にある魏夫人のことである。そのため、“这”と“那”を用いて対比していると分析できる。また、その下の (3-C-b)、(3-C-c) の波線の“这”で指示している「魏国强」を発話場面の領域内の対象とすることにより、その後はアンディと譚宗明との間で彼を話題として取り上げながら会話を展開していることが分かる。

その次に魏国强を話題にしていた対話があり、(3-C-ii) においても魏夫人は発話場面の領域外に存在している対象と捉えているため、“那”で指示しているが、(3-C-iii) においては、“这”で指示している。前の対話においては、魏国强との対比も関連していることから発話の領域外の対象として“那”で指示していたが、(3-C-iii) では領域内の対象として取り上げ、“这”で指示している。この遺産相続問題については、アンディの外祖父である何先生の遺言によるものであり、会話の内容にもあるように、魏国强はこの遺産相続問題には、後妻でありアンディとは血のつながりが無い魏夫人には関与させないつもりであった。しかし、魏夫人が関わってきたことにより、魏国强にとって憂慮すべき問題が浮上してきた。そのため、魏夫人を領域内の対象として取り上げることにより、彼の視点に立脚した発話になっていると推測できる。

本章では、同一人物による発話において、「ア系」が“这”、“那”に対応している場合について分析を行った。次章では、複数の人物の発話における指示について考察を行う。



### Ⅲ. 複数の人物が同一指示対象に対して「ア系」に対応する“这”、“那”を用いている場合

本章では、複数の人物が同一の指示対象に対して「ア系」に対応する“这”、“那”を用いている場合について見ていく。

例文(4)は、「趙黙笙」とその親友の「箫筱」との会話である。モデルをしている箫筱がこっそり産婦人科に通院した様子を盗撮され、それがゴシップ記事として報道された。パパラッチから趙黙笙の家に避難してきた箫筱に対して、趙黙笙が尋ねている場面である。また、発話現場にはこのゴシップ記事が掲載されている雑誌などは存在していない。

(4) 箫筱：大床！这结婚的女人就是不一样，从头到尾都是粉红色的呀。你这大眼睛也快变成桃心的了。

「クイーンベッド！結婚した女性は違うわね！全身ピンク色なんだもの。その大きな目もそのうちピンクのハートになっちゃうわよ」

赵黙笙：我可不跟你开玩笑，跟你说个认真的。你<sub>(4-C-1)</sub>那绯闻到底怎么回事呀？是不是跟上次一样还是被人害了？

「冗談じゃなくて、真面目な話をするわよ。<sub>(4-J-i)</sub>あのゴシップ記事は一体どういうこと？この前と同じでやっぱり誰かに陥れられたの？」

箫筱：<sub>(4-C-ii)</sub>这事吧…，这次不是被人黑了。我真怀孕了。

「<sub>(4-J-ii)</sub>あのことね…。今回は陥れられたんじゃないの。本当に妊娠してるの」

赵黙笙：真的假的？你男朋友是谁呀？

「本当なの？彼氏は誰なの？」

箫筱：哎呀…，什么男朋友啊？

「ああ…、何が彼氏よ？」

赵黙笙：还不是男朋友？

「まだ彼氏じゃないの？」

箫筱：是…是路远风。

「ええと…路遠風なの」

赵黙笙：路远风？

「路遠風？」

箫筱：我喝醉了，我真的喝醉了！

「酔ってたの！本当に酔ってたのよ！」

《何以笙箫默》

例文(4)においても、日本語では(4-J-i)、(4-J-ii)の指示対象に対して「ア系」を用いている。このゴシップ記事については趙黙笙も知っていることから、両者にとって「共通理解」であるため、記憶指示の「ア系」によって指示されていると考えられる。

中国語においては、(4-C-i)に対して“那”を用い、対象であるゴシップ記事を指示している。これは、例文(1)、(2)と同様に、「話題」として発話現場に「導入」していることが分かる。まず、話し手が、両者が認識する領域外に存在している指示対象を“那”を用いて示し、その後、発話現場における話し手と聞き手の領域内のものとして認識したことから、(4-C-ii)においては“这”を用いて対象を指示している。“这”を用いて領域内の対象として取り上げていることから、以降の発話における話題の中心として会話が展開されていることが読み取れる。

この会話においては、複数の人物による発話において、「ア系」が“这”、“那”を用いて指示されている。発話現場においては、発話領域内に話し手と聞き手の両者がそれぞれ自身の領域を有している。(4-C-i)では、話し手である趙黙笙が“那”で指示した対象を発話場面における領域に導入し、聞き手である簫筱がそれを領域内のものとして認識していることから、次の(4-C-ii)においては、“这”を用いて指示していると考えられる。

次に、複数の人物による会話において、一度“这”で指示された対象が、会話の展開に伴い、“那”で指示されている例について見てみる。

例文(5)は、「関雎爾(関関)」が彼女の両親が設けたお見合いを終え、両親とともにタクシーに乗っている場面である。この時、お見合いの相手であった「豪豪」はその場にはいない。

(5) 妈妈: 关关, 刚才 (5-C-i) 那个豪豪 怎么样啊?

「関関、さっきの (5-J-i) あの豪豪 はどうだった？」

关雎尔: 妈, 你怎么能不经过我同意就安排相亲呢?

「ママ、どうして私が同意していないのにお見合いの場を設けたの？」

妈妈: 妈妈是没经过你同意, 但是眼下的当务之急最要解决的事情就是这件事情, 相亲怎么啦? 相亲不是挺好的吗?

「ママはあなたの許可をもらっていなかったわ。でも今、急いで解決しないとイケないのがこのことだったの。お見合いはどう? お見合いっていいんじゃない?」

关雎尔: 好什么呀? 你给我介绍男朋友, 总得经过我的同意吧。你这擅自安排算怎么回事呢? 再说了啊, 人家根本就不喜欢我。

「何がいいのよ? 彼氏を紹介してくれるなら、いつも私の同意を経てからにすべきよ。勝手に計画するなんて、どういうこと? それからね、相手も私のことを全く気に入ってないのよ」

妈妈: 胡说! 他不喜欢你, 你们两个一直在叽里咕噜的说那么多话。我看他是喜欢上你了。

「嘘を言って! 彼があなたのことを気に入ってないなんて。あなたたち二人でずっとぺらぺらとあんなに沢山話していたでしょ。彼はあなたのことを気に入ったんだと思うわ」

关雎尔: 还不是让你们给逼的, 逼的我连英语都上了。我刚才跟他说, 就是想说我根本不知道这场相亲, 我也不想交什么男朋友。结果 (5-C-ii) 这人 也是一样。我都说了嘛, 你们这些大人就别瞎掺和了。

「ママたちに無理やりやらされたんじゃないの。英語まで使わせたのよ。さっき彼と話していたのはね、私は初めからこのお見合いのことを知らなかったし、どんな男性とも交際するつもりはないって言ったの。結局、(5-J-ii) あの人も 同じだったのよ。それで言ったの、ママたち大人にむやみに余計なことをさせないようにしようって。」

爸爸: 看看, 看看, 看看, 我说什么来着? 那女儿大了, 人家自己有人家自己的主意。

「ほらほら、ご覧、私が言っただろう? 娘は大人になったんだから、自分で自分の考えをもっているんだよ」

妈妈: 停, 停! 你给我停!

「やめて、やめて! やめてちょうだい!」

爸爸:你就别瞎操心啦。

「お前が変に気をまわさなくていいんだよ」

妈妈:停!

「やめて!」

爸爸:好好好,你说,你说。

「はいはい、分かったよ。言って、言って」

妈妈:什么情况? 什么意思啊? 搞了半天,你们刚才说得热火朝天的是在给我们演戏呢?

「どういうこと? どういう意味なの? 長いこと、さっき話が盛り上がっていたのは、ママたちに対して演技をしていたってことなの?」

关雎尔:妈…。

「ママ…」

爸爸:呵呵呵……。

「フフフ……」

妈妈:呵呵什么?

「何がフフフよ?」

关雎尔:我…这不是怕叔叔阿姨尴尬吗? (5-C-iii) 那个男孩也是这么想的。我们都商量好了,说这一出来呢,就跟自己的父母说实话。

「私…このことでおじさんとおばさんが困っちゃうかもって心配にならない? (5-J-iii) あの男の子もそう思ったの。二人で相談したのよ。この話になったら、自分たちの両親に本当のことを話そうって」

妈妈:实什么话? 甬实话! 我不爱听这实话!

「何が本当のことよ? そんなのいらぬわ! そんな本当のことなんて聞きたくないわ!」

《欢乐颂》

例文(5)も同様に、(5-J-i)～(5-J-iii)の日本語においては、指示対象に対して「ア系」を用いている。対象である豪豪については、先ほどのお見合いで関雎爾が彼女の両親とともに会っていることから、三者ともに「共通理解」である。よって、この場合も記憶指示の「ア系」であると分析できる。

(5-C-i)の中国語においては、上述のように領域外の指示対象を「話題」として発話現場に「導入」していることから、“那”を用いていると考えられる。その後、お見合いについての話を経て、相手の豪豪について会話が展開されているため、関雎爾は豪豪を発話場面の領域内に存在する対象であると捉え、(5-C-ii)では“这”を用いて指示していると考察できる。

その後、父親も発話場面に参与し、母親とのやり取りが行われたあと、話し手である関雎爾の発話において、(5-C-iii)で示したように対象が“那”を用いて指示されている。これは、しばらくの間、父親と母親のやり取りが展開されており、指示対象である豪豪は発話場面における話題ではなくなっている。そのため、(5-C-iii)では領域外の対象となっている豪豪を指示するために“那”が用いられていると推測できる。

次の例文(6)は、「関雎爾」が彼女の両親に彼氏候補として紹介された「舒展」から食事に誘われたため、「曲笙綃」と「アンディ(安迪)」に同席してもらい、食事が終わって別れたあとの会話である。この時、指示対象である舒展は発話現場に存在していない。



(6) 曲筱绡:喂?小关啊,怎么样?帮你甩脱了没?

「もしもし?関ちゃん、どうなった?振ってやった?」

关雎尔:啊?刚才你不是在跟舒展打电话呀?

「え?さっき舒展と電話していたんじゃないの?」

曲筱绡:不是,(6-C-i)那家伙没种,我都勾引成这样了,还一点反应都没有。你必须帮我问清楚原因啊,否则我死不瞑目。

「違うよ。(6-J-i) あいつったら度胸がないのよ。私があそこまで迫ったのに、まだちっとも反応が無いの。絶対に理由を聞いてほしいんだけど。そうしないと、私、死んでも死にきれないよ」

关雎尔:我们也不清楚啊,我还正想讨教你呢。我跟安迪姐刚才说了半天了,就觉得(6-C-ii) 这个舒展挺矛盾的,今天饭桌上的行为尤其奇怪。

「私たちも分からなくて、ちょうど教えてもらおうと思っていたところなのよ。さっきアンディさんと長い間話していたんだけど、(6-J-ii) あの舒展はすごく矛盾していると思うの。今日の食事での行動もすごく変だったわ」

曲筱绡:不用说了,我懂了。这种人啊,太普遍了,(6-C-iii) 这家伙啊,顶多一个月一两万的工资,可是以他的消费呢,没个五六万下不来,而且啊,他还要养车,什么红酒、奶酪、自驾游…这都需要钱,钱从哪儿来啊?和他父母要啊,他爸妈严重喜欢你,所以呢,他才要追你。只要把你追到手啊,他爸妈的钱也就到手了。有点窝囊啊。

「言わなくていいよ。分かっているから。ああいうタイプはね、どこにでもいるのよ。(6-J-iii) あいつはね、せいぜい月に1、2万の給料なのに、彼の使いつぶりだと5、6万は下らないよ。それからね、車の維持費も必要だし、ワインとかチーズ、ドライブ旅行…これ全部お金がかかるでしょ。そのお金はどこから出てくるの?彼の両親からもらっているのよ。彼の両親はあなたのこと凄く気に入っているから、彼はあなたにアプローチしているのよ。あなたへのアプローチが成功したら、両親のお金も手に入るの。意気地がないんだよ」

《欢乐颂 2》

この場合においても、日本語においては、発話者に関わらず(6-J-i)～(6-J-iii)は「ア系」が用いられている。上述のように、話し手と聞き手の「共通理解」になっていることから、記憶指示による「ア系」としての使用であることが窺える。

最初に关雎尔の発話の中に二重線部分で示した舒展が現れている。その後の曲筱绡の発話の(6-C-i)と(6-C-iii)の“家伙”は舒展を指している。(6-C-i)の“家伙”は“那”で指示されている。この場合、発話場面における両者の領域外のものとして捉えられているというより、聞き手である关雎尔に対して関わりが強い対象(关雎尔の両親が紹介した彼氏候補)として捉えられていると考えられる。そのため、発話場面における領域内の聞き手の領域に存在する対象として認識しているため、“那”が用いられていると推測できる。

日本語の「ア系」と「ソ系」の使い分けにおいても、堀口(1978)が指摘しているように、話し手が聞き手の存在を顧慮する場合があります、相手にとって関わりの強いものと捉えている場合は自己抑制をして、その対象を自身にとって関わりが弱いものとして「ソ系」で指示する。中国語においても、対象が相手にとって関わりの強いものであると捉えている場合は、“那”が用いられると推測され、日本語の「ア系」と「ソ系」のような使い分け

と近似していると考えられる。

その後、関雎爾と曲笙綃の発話の(6-C-ii)、(6-C-iii)のように“这”を用いて指示されていることから、聞き手と話し手の両者が発話場面の領域内に存在する対象であると捉えていると考えられる。したがってその後も、話し手と聞き手の話題として舒展についての会話が展開されていることが読み取れる。

例文(7)は「舒展」と食事をした後に「関雎爾の母親」から彼女の携帯電話に電話がかかってきた場面の会話である。「関雎爾」が電話に出るのを躊躇していたため、そばにいた「曲笙綃」が彼女の携帯電話を取り上げて、母親からの電話に代わりに出ている。関雎爾は曲笙綃の発話をそばで聞いている。例文(6)と同様に、指示対象である舒展は発話現場に存在していない。

(7) 关雎尔：怎么办呀？我妈给我打电话了！她肯定是要问我跟(7-C-i)那个舒展的约会进度，这…这，我该怎么说呀？我该怎么说呀？

「どうしよう？ママから電話がかかってきたわ！(7-J-i)あの舒展とのデートの進展について絶対聞いてくるわ。え…ええと、何て言えばいい？何て言えばいい？」

(曲笙綃が関雎爾の母親からの電話に出る)

曲笙綃：阿姨呀，我是小关的邻居小曲，对对对，关关现在在洗澡呢，你找她什么事啊？哦，让她一会儿打过来呀，好好好，没问题。阿姨啊，是这样的，前两天呢，我们一起跟(7-C-ii)那个舒展吃了个饭，(7-C-iii)那孩子呀，就是一败家子。花钱比我还大手大脚，赚的还不及他的零头。人看上去倒是挺老实的，但是啊，挺闷骚。看到我跟安迪呀，就转不开眼。阿姨，关关洗澡出来了，有什么事你跟她说说啊。

「おばさん、私、関さんのお隣の曲です。そうそう、そうです。関関は今お風呂に入っているんですが、彼女に何か御用ですか？ああ、後でかけ直してほしいってことですね。はい、はい、分かりました。大丈夫ですよ。おばさん、実はね、先日、私たち(7-J-ii)あの舒展と一緒に食事をしたんですよ。(7-J-iii)あの子って、ドラ息子ですね。金遣いなんて私よりずっと荒いし、稼ぎだって彼の端数にも届かないんですよ。見た目はすごく真面目そうなんですけど、でもすっごくスケベなんです。私やアンディさんを見る様子なんて、もう目も当てられなかったんですよ。おばさん、関関がお風呂から出てきたわ。用があるなら話してくださいね」

(関雎爾が曲笙綃から携帯電話を取り上げる)

关雎尔：喂，妈妈。

「もしもし、ママ」

妈妈：不应该呀，我跟你爸都很认可(7-C-iv)这个舒展的，人家可是正经出来的MBA，这一转眼被你们说得怎…怎么这么糟糕了呢？你不会是跟你同屋合起伙来骗我们的吧？

「そんなはずないでしょ。ママもパパも(7-J-iv)あの舒展のことを認めているのよ。あの子は真面目なMBAなのに、こんな短い期間で、ど…どうしてそんなに酷く言われちゃうのかしら？あなた、ルームメイトと組んで私たちを騙そうとしているんじゃないでしょうね？」

关雎尔：妈妈，小曲说的全部都是真的，我现在跟小曲想得一摸一样。

「ママ、曲さんの言っていることは全部本当なの。私も今、曲さんと全く同じように思っているわ」

《欢乐颂 2》

日本語においては、発話者に関わらず(7-J-i)～(7-J-iii)は「ア系」が用いられている。この場合も記憶指示による「ア系」としての使用であることが窺える。

最初の発話より、話し手である関雎爾は母親からの突然の電話で舒展とのデートについて尋ねられると予測しているが、この時点では聞き手と話し手の両方で舒展についての会話はなされていない。この場合も、上述のように、両者が認識する領域外に存在している指示対象を示していることから、(7-C-i)において“那”を用いていると分析できる

次の曲笙綃の発話は、関雎爾の母親とのものである。(7-C-iii)の“孩子”は舒展を指示している。(7-C-ii)、(7-C-iii)が指す舒展は両者における会話の話題として捉えられるが、“那”を用いて指示されている。これは、舒展が関雎爾の母親が娘の彼氏候補として推している対象であることから、話し手である曲笙綃が聞き手である関雎爾の母親にとって関わりが強い対象として捉えているためであると考えられる。そのため、例文(6)と同様に、発話場面における領域内の聞き手の領域に存在する対象として認識していることから、“那”が用いられていると推測できる。

その後の関雎爾の母親の発話における(7-C-iv)では“这”が用いられている。これは、指示対象である舒展は母親自身が紹介しているため、自分と関わりが強いものとして捉えているからであると考えられる。そのため、話し手の領域内に存在する対象であると認識していることから、“这”によって指示されていると窺える。また、指示対象である舒展に対する理解については、曲笙綃及び関雎爾の二人の話から窺える舒展の為人と、母親自身の認識において異なっている。すなわち、曲笙綃及び関雎爾が認識している対象は別の領域にあるものとして捉えられているため、話し手である母親自身の領域に存在する対象と対比することにより、“这”で指示されていると分析できる。

#### IV. おわりに

本稿では、日本語においては話し手と聞き手の間での「共通理解」となっている「ア系」に対応する指示対象が、中国語においては、“这”、“那”の両方で指示される場合について、その使い分けに対して考察を行った。

日本語においては、指示対象が発話場面に存在しておらず、話し手と聞き手の「共通理解」となっている場合は、記憶指示の「ア系」を用いる。中国語においては、発話場面において話し手と聞き手の領域外に存在するものを指示する際には“那”を用い、その後、話題として領域内に導入され、その指示対象について会話が展開されている際には“这”を用いていると指摘した。

また、日本語と中国語において、指示対象が発話場面の領域内に導入された場合、聞き手の領域内に存在すると話し手が認識しているのであれば、その対象に対して話し手が聞き手にとって関わりの強いものとして捉えている。この場合、話し手は聞き手に対して配慮を行うことにより、自己抑制をしていると推察できる。これは、堀口(1978)が述べている「社交の術」とも関連があると考えられる。この「社交の術」については、話し手が実際には自身と関わりが強いものであると認識していても、それを聞き手に知られないようにするために故意に指示詞を使い分けるといった場合も当てはまると考えられる。両言語におけるこのような場合の対照についても、分析を進めていきたい。

## 参考文献

- 1) 日下部直美: 日本語と中国語の指示詞に関する一考察—「ア系」と“这”が対応する場合を中心に. 星城大学研究紀要. 20:17-26, 2020.
- 2) 讃井唯允: 中国語指示代名詞の語用論的再検討. 人文学報. 東京都立大学人文学部, 198:1-19, 1988.
- 3) 木村英樹: 中国語文法の意味とかたち—「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究. 白帝社, 東京, 2012.
- 4) 吉本啓: 日本語の指示詞コソアの体系. 金水敏, 田窪行則・編, 指示詞 (日本語研究資料集: 第1期第7巻), ひつじ書房, 東京, 1992, 105-122.
- 5) 堀口和吉: 指示詞の表現性. 日本語・日本文化. 大阪外国語大学, 8:23-44, 1978.  
(再録: 金水敏, 田窪行則・編, 指示詞 (日本語研究資料集: 第1期第7巻), ひつじ書房, 東京, 1992, 74-90.)

## 例文引用

- 《何以笙箫默》全 32 話 2014 年  
《欢乐颂》全 42 話 2015 年  
《欢乐颂 2》全 55 話 2017 年